

基本構想(案)

目次

(1)本市を取り巻く社会情勢	1
(2)茨城県総合計画における本市の位置づけ	1
(3)主要データから見た本市の現状	2
(4)市民満足度調査から見た本市の展望	2
(5)市民の声収集から見た本市の展望	4
(6)職員の声収集から見た本市の展望	6
(7)施策評価から見た計画の達成状況	7
(8)人口フレーム	8
(9)土地利用～将来都市構造	8
(10)各種データ等から把握された課題	9
(11)計画体系	12
(12)基本理念～政策目標	13

(1) 本市を取り巻く社会情勢等

1. 人口減少及び少子高齢化の進行

- ・労働人口不足, 地域活動・運営の継続への懸念
- ・老年人口割合の増加による扶助費の増加やサービスの維持困難
- ・人口減少に応じた公共施設, 道路等のインフラ整備への懸念

2. 社会の「ボーダーレス化」と「新たな日常」の実現

- ・自然災害・環境問題・その他地球規模のリスクへの広域連携及び地方自治体独自の柔軟な対応・地域における助け合いやリスクコミュニケーションの必要性
- ・Society5.0の実現への挑戦, 人工知能(AI) ロボットなどの科学技術の進展

3. 地方公共団体の持続可能性と SDGs の自治体単位における対応

- ・「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し, 社会・経済・環境の調和を取りながら広範な課題に統合的に取組むための17の目標と169のターゲット
- ・国における「SDGs実施指針」を策定に基づき, 地方自治体が策定する各種計画等にSDGsの要素を最大限反映することを奨励
- ・国におけるSDGsアクションプラン2021等の各年の実施計画との連動
- ・科学技術の進展に対応できる人材の育成, カーボンニュートラル, 子どもの貧困対策, 持続可能な開発のための教育等の推進

4. 価値観や暮らしの変化

- ・地域に対する貢献への考え方の変化, 従来地域コミュニティのあり方の見直し
- ・新型コロナウイルス感染症拡大等で価値観や生活様式がさらに顕在化
- ・働き方改革による多様な働き方の実現
- ・健康寿命の延伸に向けた予防・健康づくり
- ・子どもの貧困, 貧困の連鎖の深刻化
- ・男女共同参画の推進
- ・外国人, LGBT等の多様性への対応

5. 安全・安心意識の高まり

- ・新型コロナウイルス等の感染症流行
- ・地震・台風・豪雨・竜巻・山火事や猛暑などの自然災害
- ・食の安全
- ・地域の防犯・凶悪犯罪・テロ

(2) 茨城県総合計画における本市の位置づけ

- ・基本理念が「活力があり, 県民が日本一幸せな県」である茨城県総合計画において, 地域づくりの基本方向として, 県南地域の「常磐線メトロフロントゾーン」にあたる本市は, 「鉄道や高速道路などのネットワーク強化」が課題として挙げられており, 東京圏との近接性を活かし, 鉄道や高速道路によるネットワークの強化を図りながら, 自然と都市が調和した魅力的な生活環境」の形成を「目指す将来像」としてしています。

(3) 主要データから見た本市の現状

- ・近隣自治体と比較すると人口減少率の割合が高い
- ・高齢化率及びひとり暮らし高齢者世帯の構成比の増加
- ・歳出における扶助費の増加
- ・公共交通の利用の伸び悩み
- ・農地・農家数の減少
- ・入込観光客数の伸び悩み
- ・地域コミュニティ(町会・自治会)の衰退 等

(4) 市民満足度調査から見た本市の展望

業務改善必要度の高い施策

1位 地域医療の充実	4位 道路の整備
2位 防犯対策の充実	5位 交通安全の推進
3位 商業の振興・中心市街地の活性化	

満足度・重要度以外の項目における意見

【中心市街地について】

- ・全世代で食料品等の買い物や銀行・郵便局・通院といった日常生活に関するニーズが高く、若い世代は、通勤通学の他、遊び・娯楽、イベント等へのニーズがある

中心市街地へいく目的は？
「食料品等の買い物」が最も多く、次いで「銀行・郵便局・通院」となっています。年代別では、10歳代は「通勤・通学」が最も多くなっています。

- ・中心市街地活性化の取り組みとしては、空き店舗の解消のほか、若い世代ではイベント、中年世代以降は公共交通利便性の向上や小売店等の「日常使い」へのニーズが高い

中心市街地を活性化するために必要な取り組みは何ですか？
「空き店舗」の解消が最も多く、次いで「公共交通の利便性の向上」となっています。

【「新型コロナウイルス感染症」流行下における生活等について】

- ・テレワークができない仕事が多い
- ・コミュニティの維持に懸念が発生している
- ・コミュニティ機能を刷新・多様化させて新しい文化を生むニーズが高まっている

テレワーク・在宅勤務する上で困っていること、あるいはしたいけどできない理由はありますか？最も多い回答が「テレワークができない仕事であること」となっています。

新型コロナウイルス感染症予防の影響で困っていることや心配なことはありますか？
「友人や近所との会話、関わり合いがなくなった」が最も多く、次いで運動不足等となっています。

新たな生活様式における地域社会で大事なことはなんですか？
「コミュニティ機能を刷新・多様化させて新しい文化を生む」が約3割で最も多くなっています。その一方で、次いで「今までの地域活動や関わり方を再開させる」となっており特に70代以上で多くなっています。

【場づくりについて】

- ・教育や文化に触れることができる場、行政と市民との対話ができる場など
様々な場づくりが求められている

自由意見

子どもの頃から学校では習わない生きるための知識や体験をできる場がもっと身近にあると良いと感じる。
市民との対話の機会を用いることが大切。
文化的なカッコいい大人に、青少年が出会える場所がほしい。

【石岡市の住みやすさ・将来の姿について】

- ・住みにくいという回答者において、医療・福祉、日常生活の不便さ等が住みにくい要因
- ・石岡市の将来像は「安心・安全」、「自然」、「環境」等
若い世代では「歴史」、「伝統」が比較的高い
- ・あるべきまちの姿は全体で「生活環境が充実したまち」、「健康でいきいきと暮らせるまち」、
「福祉が充実したまち」「豊かな自然の恵みを活かしたまち」と続く、10歳代では「歴史や文化を活かしたまち」、70代以上では「健康でいきいきと暮らせるまち」が多い

あなたが望む石岡市の将来像を言葉で表すとどれになりますか？

全世代では、「安心・安全」「自然」「環境」「快適」「やすらぎ」…の順、10代20代では、「歴史」「伝統」が比較的高い

(5) 市民の声収集から見た本市の展望

1. 石岡未来工房（市民ワークショップ及び代替アンケート結果）

【石岡市のあるべき姿】

<p>“住みたい” “誇り” “資源を活かす”</p> <p>住んでいる人が幸せになるまち 子どもたちや若者が住みたいまち 誇りの持てるまち 資源を活かすまち 残していきたいものがたくさんあるまち</p> <p>“存続”</p> <p>ふるさとが存続できるまち</p> <p>“活気あふれる・応援”</p> <p>活気であふれ、老若男女が手を取り合うまち 子どもたちのやりたいことを応援するまち 仕事があって大卒で戻れるまち</p> <p>“おいしい” “農”</p> <p>農産物が美味しくてしあわせになれるまち 若い人が生きがいを持って働ける農業のあるまち 花・みどりなど癒しのあるまち 環境にやさしい市</p>	<p>“自然” “歴史” “美しい”</p> <p>歴史と自然のある美しいまち 花・みどりなど癒しのあるまち 環境にやさしい市</p> <p>“魅力”</p> <p>石岡市の魅力がいきるまち 協力して魅力を発信できるまち</p> <p>“子育て”</p> <p>安心して子育て出来るまち</p> <p>“安全・安心” “健康” “能力を生かせる”</p> <p>誕生から死ぬまで安心して暮らせるまち市民の気分のよいまち・健康なまち 自分の能力を生かせるまち 伸び伸び生活が充実できるまち</p> <p>“思いやり・認め合う・能力を活かす”</p> <p>笑顔であいさつのできるまち 思いやりの感じられるまち 年齢にかかわらず輝けるまち 多様な生き方を認め合うまち</p>
--	--

2. 転出者調査

【石岡市が力を入れていく必要があるもの】（転出手続き等される方向け窓口設置版）

1位 子育て支援の充実	4位 防犯・交通安全対策の推進
2位 鉄道・バスなどの公共交通の整備	5位 道路の整備
3位 医療体制の充実	

【石岡市に再び住むための条件】（転出された方向け郵送配布版）

1位 鉄道・バスなどの公共交通の整備	4位 商工業の振興
2位 子育て支援の充実	5位 住宅の整備
3位 企業誘致などによる雇用の創出	

（詳細ご意見：一部抜粋）

- ・交通インフラの整備／バス無人や電気化による利便性の向上
- ・上下水道の整備
- ・少人数学級、ICT 推進、幼～中一貫学校等、子育て世代を狙った取組み推進
- ・買い物のできる場所・飲食店の整備
- ・職域の拡大／賃金向上
- ・空き家（古民家等）の良心的価格での提供
- ・居住への手当て、就職への支援等に関する分かりやすい情報発信

3. 高校生ワークショップ

【石岡市のあるべき姿】

“活力・活気” “便利”

足を止めるたくさんのお店があるまち
活気・笑顔
多くの選択肢をとれる
石岡市内だけですべてがそろうまち！
若い人にとって便利なまち

“安全・安心” “住みやすい”

市内市外の人が安心・安全だと思えるまち
治安がよく安心・安全なまち
お年寄りが住みやすいまち

“環境” “文化・自然” “新鮮”

もっと自然を豊かにする
人も環境も明るいまち
新鮮(新しい人との出会い・新しい農産物)
文化や自然をよりよくするまち
高浜を大切にすまち

“子育て” “子ども”

子育てがしやすいまち
子どもがたくさんいる

“魅力的” “石岡にしかないもの”

他の市町村から見て魅力がある町
また来たい・ここで生きたいと思えるまち
SNSから魅力を発信
石岡といえば！といったものを増やした
観光客が多くなるようにしたい

“楽しめる”

娯楽があるまち
どの世代も楽しめるまち
気軽に寄れてどの年齢の人も楽しめるまち

“存続”

市内のどこに住んでいても困ることがないまち
石岡市民の将来を約束するまち

“挑戦”

珍しいことをやってみるまち

“対話” “交流”

アイデアが常に飛び交うまち
市民の交流の場や年代関係なく交流できる場づくり
市民の意見を積極的に取り入れる

4. 子育て世代ワークショップ・ヒアリング

【石岡市のあるべき姿】

“情報” “相談”

情報が自然と入ってきて、支援センター等もオープンな場所となり、「行こう」から「行きたい」と思える場所がたくさんあるまち
いつでも気軽に相談にのってほしい
産後サポートなどでいつでも訪問してくれる安心感がほしい
小学校以降の教育の情報が自然に入ってくるようにしてほしい

“住みやすい”

小さい子からおじいちゃんおばあちゃんが仲良くおだやかに暮らせるまち
車が止められる公園がたくさんある
歩道が狭くベビーカーが押しにくい
家から歩いていけるとところに近所の赤ちゃんと交流の場所があるといい
子ども用の便座や椅子がある場所が増えると助かる

“子育て支援”

産後ケアの充実、母に対する施策
子育て支援が充実している
子ども向けの図書館がある
おむつ補助券はうれしい、とても助かる！
ファミリーサポートがあると助かる
おもちゃレンタル・チャイルドシート貸出

“教育” “体験”

英語とふれあえる機会があるまち
農業体験ができるまち
魚釣りができる川・ところがあるまち

“環境” “自然”

自然が豊かでたくさん遊べるまち
子どもが大人になっても思い出してくれる風景のあるまち

(6) 職員の声収集から見た本市の展望

1. 若手職員ワークショップ：今後実現していただいたいと思うこと

【女性や若い人がリターンしやすい、多様な人が働ける仕事づくり】

- ・仕事先の多様化(労働環境, 業種, 海外関係, 農業, 個人事業主)
- ・多様な人(女性・若い人・外国人など)が働けるまちづくり
- ・リモートワークの推進

【体験のある教育・子育て基盤づくり】

- ・子どもの遊び(体験)の場づくり
- ・地域産業への学びや体験機会の充実, 国際交流
- ・子どもを預けられる環境づくり(延長保育・学童保育の充実, 託児所, ベビーシッター)
- ・ふるさと学習/郷土愛・ゆたかな心の育成/市民の成長

【IT・AIを活用した対話と成長のまちづくり】

- ・ゆるく参加できる対話の場づくり(市民が気軽に声を出せる場)
- ・オンライン会議の活用(各事業・テーマごと), 問題意識の共有
- ・対話によって職員も市民も成長するまちづくり

【人財の発掘・活用, コミュニティづくり】

- ・市内にいる活きのいい人たちの見える化
- ・コミュニティ機能の見直しとコミュニティの刷新

【産業・観光・情報発信】

- ・6次産業化や副業等の許容を通じた農業の保全と刷新
- ・戦略的な観光/資源を戦略的に活かす
- ・SNSの活用(職員一人ひとり, 市民)

【外国人の受け入れ】

- ・翻訳機貸出/空き店舗活用
- ・地域との交流会/企業間での人材交流
- ・英語教育

2. 庁内ワーキングチーム内の職員ワークショップで出た意見を踏まえた本市の将来像

- ・災害に強い石岡市
- ・オンリーワンの魅力がある石岡市(今ある魅力の発見, 魅力の創出)
- ・働く場所のある石岡市(若者, 移住)
- ・人が集い, 育つ石岡市(育児環境, 教育, 高齢者の心を引き継ぐ, リーダー・コーディネーターの育成, 新しい場づくり)
- ・先進技術による都市基盤がある石岡市(ICT技術の活用, 研究拠点の活用)
- ・シティプロモーション強化で魅力を市民も職員も発信できる石岡市

3. 職員アンケート結果

職員数689人 回答数421人 回答率61.1%

【基本理念・将来像のキーワード投票】

1位:安心	212票	6位:健康	94票
2位:安全	195票	7位:やすらぎ	91票
3位:子育て	156票	8位:活気	78票
4位:自然	136票	9位:魅力	75票
5位:快適	119票	10位:にぎわい	72票

・自由意見

「未来への多様性を育む街 石岡」「夢と思いやりの溢れるまち」

「ふるさとを誇り 未来へ繋ぐ 共生共創都市 いしおか」

「1300年の歴史と里山の自然が息づく郷土愛あふれるまち」 など

【主な自由意見】

「財政状況の改善が重要だと思います。将来の子どもたちへ大きな負債を残さないように」

「心穏やかに、安心して暮らせる街であるべき」

「国全体の人口が減少しているなかで、市の人口減少を前提として考えることも必要かと思います」

「人口減少によって暗い未来が待っていますが、それを打破していくためにはSDGs, 多様性の尊重による幸福感の醸成, Society5.0, 自治体DX推進による情報通信技術の最大限の活用, 基礎自治体の役割を見極め, 広域連携による共同事業, 共同発注の仕組みづくりが急務です」

「地方は家父長制度の名残・古い家庭観念の押し付け根強く, 若い世代(特に女性)の転出増の背景と感ずる。育児支援を謳うのならば, 女性が自活できる生活基盤がある町にしていきたい。生涯未婚率・独居高齢者世帯の増加が見込まれるなか, だれもが一人で不安少なく生活していける体制を整えることを目標にしたほうが良いと思う」

「主役・主体は市民とし, 行政主導ではない地域活性化を含んだ計画となってほしい」

(7) 施策評価から見た計画の達成状況

評価が C (一部成果は認められるものの課題や問題があり, 遅れている) の施策の評価

- ・公共交通機関の充実(公共交通の重要性が見直される中, 依然として主要な移動手段が自家用車)
- ・地域医療の充実(令和2年7月から, 内科・小児科の緊急診療及び外科の在宅当番医診療の実施がない状況)

市民満足度の重点改善分野で満足度が低い施策の評価

- ・商業の振興・中心市街地の活性化(活性化へ向けた施策や特産品の商品化支援に取り組んでいるが, 成果指標の目標値に至っていない)
- ・防犯対策の充実(刑法犯罪件数の減少も見られることから, 環境整備は一定程度進んでいる)

(8) 人口フレーム

- ・コロナ禍の人口動態への影響について、男性は20代前半でやや転出超過になっています。女性は、30代後半での転入が減少し、それに伴い男女とも6歳未満の転入がやや減少し、逆に0～1歳はやや転入が増加傾向となっています。
- ・上記も踏まえたコーホート要因法による将来人口推計の結果、令和12年には6万4千人、令和22年には5万4千人になると推計されます。
- ・年齢別で見ると、生産年齢人口、年少人口は大幅に減少します。

(9) 土地利用～ 将来都市構造～

- ・将来都市構造については、石岡市都市計画マスタープランと整合を図りながら検討します。

(10) 各種データ等から把握された課題

1. 対話によるまちづくりについて

課題	課題の補足
多様な主体が共に「対話」を通して実効性のあるまちづくりを進めることが必要	価値観の多様化、現役世代の延伸などにより、地域に対する貢献への考え方が変化し、従来の地域コミュニティだけでは地域課題を解決できない事態が予想される。 今後は「地縁型」だけでなく「テーマ型」の地域コミュニティも含めて広く、気軽に、多様な市民が参加できる場づくりが求められる。

根拠データ等

市の現状に関するデータ

- ・自治会の加入数, 加入率はともに減少
- ・男女共同参画に関連し, 「社会通念・慣習・しきたりなど」や「政治の場」などで男性のほうが優遇されていると感じている回答割合が高い

市民満足度調査結果

- ・「国際交流の推進」の施策重要度は47施策中最下位

ワークショップ等で出された意見等

- ・頻繁に「対話」のキーワードが出ている
- ・国際交流, 外国人の受け入れ
- ・人が集い, 育つ石岡市(新しい場づくり)

2. 産業・経済動向を踏まえた魅力のまちづくりについて

課題	課題の補足
地域経済の循環と活性化に向けて「地域に暮らす生活者」視点での地域産業振興の視点が必要	農林業の継続と発展, 農村環境や景観の保全に向けて, 担い手を増やす「儲かる農林業」の視点が必要。 商業の振興・中心市街地の活性化に向けて, 市民の意向を把握し, 行政・事業者・市民が共に考え, 連携し, 価値の強化, 価値の創造を図っていくことが必要。 農林業及び商業の振興のため, 戦略的な情報発信により, 石岡市の魅力をPRしていくことが重要。

根拠データ等

市の現状に関するデータ

- ・農家数, 経営耕地面積ともに減少傾向であり, 耕作放棄地は増加傾向
- ・入込観光客数は9月が突出しており, 石岡のお祭りに依存している

市民満足度調査結果

- ・「商業の振興・中心市街地の活性化」の満足度が低く, 業務改善必要度が高い

ワークショップ等で出された意見等

- ・オンリーワンの魅力がある石岡市(今ある魅力の発見, 魅力の創出)
- ・シティプロモーション強化で魅力を市民も職員も発信できる石岡市

3. 教育・生きがい・幸せに関するまちづくりについて

課題	課題の補足
子どもも大人も学び・育ち、全ての市民の心が豊かで幸せを感じられる取り組みが必要	市民が郷土を知り、自らの手でまち(歴史資源・自然環境)を守り、育てるために、多世代が参画できる想いを伝えられる体験の場を経て、子どもも大人も学び・育ち、生きがいをもって心が豊かになっていくことで個々の市民が幸せを感じられる取り組みが必要
根拠データ等	
市の現状に関するデータ ・石岡市の人口増減率は、近隣自治体と比較すると減少率の割合が多くなっており、転入超過者数を年齢別で見ると、特に20歳代前半の転出超過が顕著 ・学校給食の地場産物の活用率は上昇傾向 市民満足度調査結果 ・「創意ある学校教育の推進」は重点維持分野に区分・自由意見「子どもの頃から学校では習わない生きるための知識や体験をできる場がもっと身近にあると良いと感じる」 茨城県総合計画 基本理念「活力があり、県民が日本一幸せな県」 ワークショップ等で出された意見等 ・住んでいる人が幸せになるまち・地域産業への学びや体験機会の充実 ・郷土愛、ゆたかな心の育成／市民の成長 ・人が集い、育つ石岡市(育児環境, 教育, 高齢者の心を引き継ぐ, リーダー, コーディネーターの育成, 新しい場づくり)	

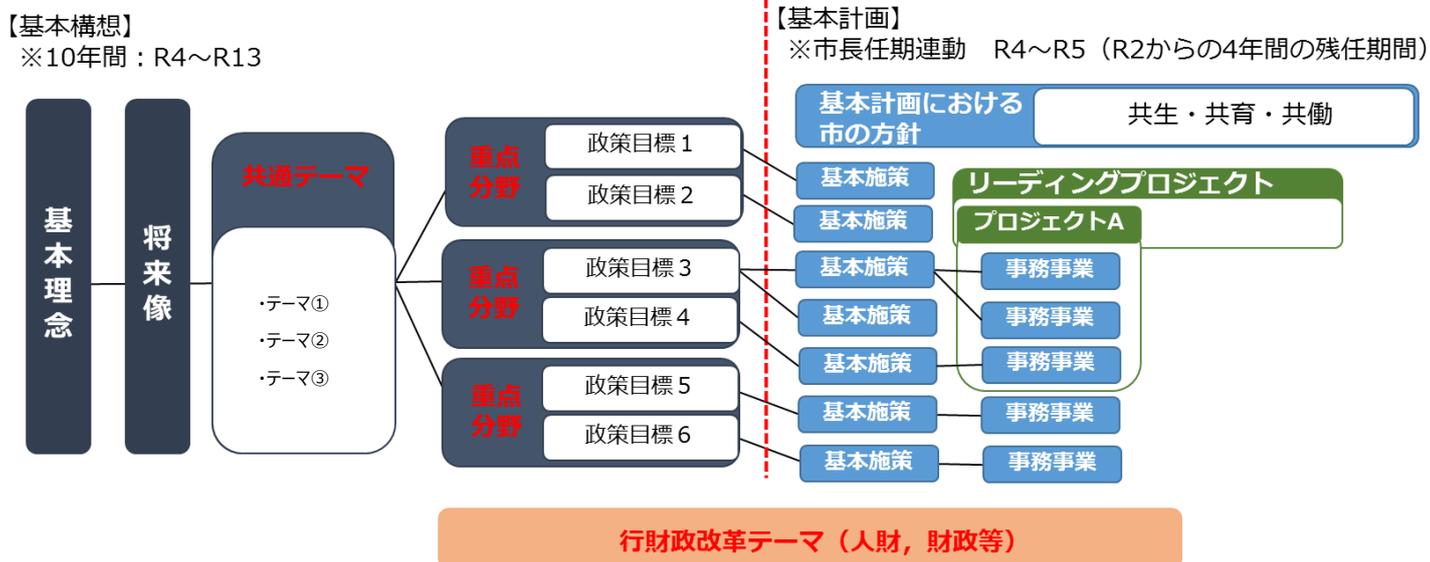
4. 安全・安心・都市基盤・公共交通に関するまちづくりについて

課題	課題の補足
安全・安心な暮らしを実現し、情報通信技術を活用した都市基盤により、市民の生活を支援する取り組みが必要	自然災害や犯罪などのリスクに対し、市民・行政・防災関係機関等が、それぞれの役割と責任もとに相互に連携・協力して防災対策が行える体制を作ることが必要 車社会の中で、市民の移動をいかに支援していくかの取り組みが必要であり、情報通信技術の目まぐるしい進化を機敏にとらえ、効率的で持続可能な公共交通を実現することが必要
根拠データ等	
市の現状に関するデータ ・主要な交通手段が自家用車であり、電車や地域公共交通の利用者は減少傾向 ・刑法犯発生総数は減少傾向だが、1,000人当たりの犯罪率は近隣自治体よりやや高い ・自主防災組織の活性化により自主防災組織の設立組織数は増加 市民満足度調査結果 ・「道路の整備」「交通安全の推進」の業務改善必要度が上位 ・自由意見「生活の基盤となる事項(道路, 下水道の整備等)を優先して取り組んでいただきたい」「日常生活に支障をきたすほど公共交通手段が脆弱であり、買い物や通院など日常生活を送るためには自家用車などを使用するのが前提の生活であり、怪我や病気, 検査のために検査薬等を使用する際には交通手段の確保が困難である」 転出者調査結果 ・石岡市に再び住むための条件の1位が「鉄道・バスなどの公共交通の整備」 ワークショップ等で出された意見等 ・先進技術による都市基盤がある石岡市	

5. 健康福祉に関するまちづくりについて

課題	課題の補足
<p>健康な暮らしに向けた更なる取り組みが必要</p>	<p>少子高齢化の中で子どもから大人まで安心して暮らせるとともに、健康寿命の延伸に向けて、健康づくりや生活習慣病の予防、地域医療の充実が必要</p> <p>新型コロナウイルス感染症、自然災害等の社会を取り巻く様々な危機やリスクにおいても市民が日常生活や活動を継続できるように、まちの柔軟性や適応能力を高めることが必要</p>
<p>根拠データ等</p>	
<p>市の現状に関するデータ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和12年には人口は6万4千人、令和22年には5万4千人になり、65歳以上の人口は現在の33.5%から44%になる見込み ・高齢者のいる世帯のうち、一人暮らしの高齢者の割合は増加傾向 ・市の歳出で、福祉や子育て支援などの事業を行う扶助費が年々増加 ・介護保険第1号被保険者及び認定者ともに増加 ・生活保護率は増加 ・特定健康診査実施率は増加 <p>市民満足度調査結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域医療の充実」「防犯対策の充実」の業務改善必要度が高い 令和2年7月から、内科・小児科の緊急診療及び外科の在宅当番医診療の実施がない ・「防災機能の整備・強化」の重要度が高い ・自由意見「地域医療が不安。休日夜間の体制が不安」「石岡の医療が一番心配です。市内に産科や入院施設が不十分だと不安です」 <p>ワークショップ等で出された意見等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八郷地区の地域医療が弱い、産婦人科がない、病院が少ない 	

(11) 計画体系



ポイント①…共通テーマは、10年間変わらない普遍的なテーマとして基本構想に加える。

ポイント②…政策目標を束ねるものとして、重点分野を設置することで、将来像実現のために、市が注力することを分野ごとに明らかにする。

ポイント③…政策施策の体系を基本計画に記載することで社会情勢の変化に機敏に対応できるようにする。

ポイント④…リーディングプロジェクトを配置し、基本計画期間内で集中的に実施する取組みを内外に明らかにする。

ポイント⑤…すべての政策施策を下支えするものとして、行財政改革テーマを位置づけます。人材育成や限りある財源の効果的な活用のための施策が盛り込まれます。

(12) 基本理念～政策目標

【基本理念】 「安全・安心」「魅力」「対話・学び」



将来像を実現するために、常に持つべき考え

【将来像】 「誰もが輝く未来へ 共に創る石岡市」

(代替案) : 「誰もが花ひらく未来へ 共に創る石岡市」

出産、子育て、教育、社会経済活動、生きがい等、生涯にわたり誰もがあらゆるライフステージで、輝く未来を創り上げることができる石岡市を目指します。そのためには、安全で安心なまちづくりや、魅力ある様々な地域資源を活かしたまちづくり、対話による学びを通じた共創のまちづくりを進める必要があります。複雑化・多様化する社会情勢に柔軟に対応しながら、持続可能な社会を、創り上げていきます。



将来像を実現するために、全政策・施策において、共通して取り組むべき事項

【共通テーマ】 人口減少・少子高齢化・関係人口増加への対策

共に創るまちづくりの推進

持続可能な社会の実現（SDGs, 情報通信技術）

市民満足度調査をはじめとした様々な調査の結果、どの世代においても共通するものとして、「安全・安心」が挙げられました。また、石岡市にある多くの「魅力」を活用・創出し、発信していく取組みや、将来を担う人々の「学び」の重要性、多様性を尊重していく社会において、相手の立場に立ち、自分事として共に考えるといった「対話」の必要性などの多くの意見をいただきました。

これらの多くの意見を、石岡市の将来像実現のため、常に持つべき普遍的な理念とすることで、あらゆる主体が輝くことができるような、10年後、20年後の石岡市を創り上げます。

また、将来像の実現を目指し、人口減少及び少子高齢化、関係人口増加対策を行うこと、持続可能な社会の実現のためにSDGsの考えを持つこと、情報通信技術を最大限活用することを進め、多様な主体と共にまちづくりを行うことを、全ての政策・施策に共通テーマとして掲げます。

【重点分野および分野ごとの政策目標】

- ① 輝く「まち」分野・・・安全・安心／都市基盤・環境
- ② 輝く「ひと」分野・・・健康・福祉／子育て・教育
- ③ 輝く「暮らし」分野・・・産業・経済／地域・文化
- ④ 輝く「魅力向上」分野・・・歴史・観光／情報発信

将来像の実現のため、全政策・施策に共通するテーマを保持しつつ、より効果的な施策展開を図るため、4つの分野と8つの政策目標を設定します。

一体的に進めて行くべき政策同士を束ねる重点分野を設け、「まち」・「ひと」・「暮らし」に分類することで、より市民に分かりやすい体系の構成とします。さらに「魅力向上」を重点分野に加えることで、石岡市の強みである歴史や観光を前面に出し、市内外に情報発信する姿勢を明らかにします。

これら4つの分野を下支えするものとして、「チャレンジする市役所」を位置づけます。行財政改革大綱と一体的な分野であり、挑戦し、やりがいを得られる組織風土・人材育成を目指すとともに、限りある財源を効果的・効率的に活用するための施策を盛り込みます。

